

腫瘍外科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

【腫瘍外科における腹腔鏡下 Covering stoma 造設例における合併症の検討】への協力をお願い

直腸癌に対する腹腔鏡下手術が増加し、腹腔鏡下低位前方切除術や ISR といった肛門温存術を行う場合、縫合不全が懸念される症例では covering stoma 造設を施行しています。Covering stoma に関連した合併症の報告は少ないため、当科で腹腔鏡下に施行された covering stoma の現況を把握するため、合併症を早期（術後 1 ヶ月以内）・晚期（術後 1 ヶ月以降）・stoma 以外に分けて、後ろ向きに検討することとします。この治療の現況を検証するためには後ろ向き研究（今までの臨床データを解析して、治療成績や患者さんの自然経過をみさせて頂く研究）が非常に重要です。

それにゆえ、当科で治療された患者さんの2010年1月～2016年3月までのデータを解析いたします。対象となるデータは、診療録（問診、診察所見、ストーマ外来記録）、検査結果（血液検査など）、画像検査（CT, MRI など）、手術記録など日常診療において行われてきた診療録のデータです。

この研究は、過去の診療記録を用いて行われますので、該当する方の現在・未来の診療には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人情報には匿名化させていただき、その保護には十分に配慮いたします。当然ながら、学会や論文などによる結果発表に際しても、個人の特定が可能な情報は全て削除されます。

この研究に関して不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には以下にご連絡いただきたいと思います。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

2016年11月2日

連絡先：岐阜大学医学附属病院 第2外科

研究代表者：吉田和弘

担当者：高橋孝夫、松橋延壽

電話：058-230-6233